暗やみに輝く妖しい植物たち

多くの植物は緑色の葉や茎を持ち、光合成によって生きていくためのエネルギーを獲得しています。その一方で、太陽光を必要とせずに、暗い森の中で地中の菌類やカビから栄養を得て生活している植物たちがいます。「菌従属栄養植物」と呼ばれる彼らは、キノコのように不意に地上へ現れたかと思うと、独創的な花を咲かせて私たちを魅了します。今回は、東由木地区の樹林下などで見つけることのできる代表的な菌従属栄養植物をご紹介しましょう。

『ひとまちみどり由木』が管理する81ヶ所の公園には、多様な動植物が暮らしています。
このコーナーでは、管理作業や巡回の折に出会った動植物について、その際に撮影した写真とともに紹介していきます。

ギンリョウソウ
（ツツジ科）

梅雨の雑木林でもっとも普通に見ることができます。
モリチャバネゴキブリが本種の果実を食べることにより、種子が運ばれるそうです。

シャクジョウソウ
（ツツジ科）

ギンリョウソウとの違いは、全体が黄色味を帯びて一つの茎に複数の花を付けること。最近になり、見かける機会が増えてきました。

アキノギンリョウソウ
（ツツジ科）

晩夏から秋にかけて開花します。ギンリョウソウのような見た目ですが、シャクジョウソウに近縁で、花後の果実は上を向きます。

トサノクロムヨウラン
（ラン科）

竹やぶや笹の繁った雑木林の地上に生育し、花は午前中の早い時間帯にしか咲きません。2018 年に、本種の分類が解明・整理されました。

タシロラン
（ラン科）

落ち葉の堆積した薄暗い場所に群生します。
大きいものでは膝丈ほどになりますが、地上に姿を現す期間は短く、あっという間に姿を消します。

マヤラン
（ラン科）

雑木林や照葉樹の植え込みなどに群生し、花は夏と秋の二回咲きます。
葉を持たない野生ランの中では比較的よく見かける身近な種類です。

サガミラン
（ラン科）

見た目はマヤランとそっくりで同じような環境に生えますが、より珍しい種類です。花には模様がなく、一様に淡い緑色をしています。

オニノヤガラ
（ラン科）

雑木林の林床にニョキニョキと伸びて、120cm ほどの高さに成長する大型の野生ランです。
花は“猫の手”のような不思議な形をしています。

クロヤツシロラン
（ラン科）

夏の終わり頃、地上からわずか 2～3cm の茎の先に、目立たない花が咲きます。
結実すると茎が高く伸びてきて目に付くようになります。

※生育地保護などの観点から、見られる場所に関する情報公開は控えさせていただきます。ぜひご自身の目で探してみて下さい。